

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	KB1150	タイプ	公募型
派遣国	ベトナム社会主義共和国		派遣都市	ハノイ	
受入機関	Vietnam Chamber of Commerce and Industry(VCCI)				
受入機関概要 (事業内容等)	ベトナム企業支援を中心に産業界の発展を担う機関。全国に9つの拠点があり、職員は総勢1100名程。主な活動は、貿易・投資促進セミナーや各国企業とのネットワーキングの開催、政府への提言等。				
派遣期間	2014年9月3日 ~ 2015年2月12日				
現在の所属先	日本無線株式会社		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	海外事業推進部		所在地	東京都	
区分	大企業		性別	男	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

当時、経営戦略本部に所属しており、海外における成長戦略の一環として、当インターンシップを活用した海外人材育成プログラムを企画し、人事部へ提案しておりました。その際、私自身も参加してみたいと思い、申込んだというのがきっかけです。合格できたら、効果測定だけでなく、ひとつでも価値あるアイデア・人脈を掴んで会社へ新たな風を吹かせる契機にしたいという決意をもって臨みました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

以下の3点が主な活動でした。

- ・複数省で開催された投資促進セミナーや海外企業とのビジネスネットワーキングイベントへ出席
- ・日越ビジネスネットワーキングイベント運営やベトナム企業団日本視察のアレンジメント
- ・インターン活動を通じて懇意になったベトナム企業やハイテクパークの訪問・インタビュー

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

インターン活動を通じて得られた成果はいくつかありましたが、とくにベトナムで事業展開を強化・促進するための人脈を構築できたことが財産です。人脈として、ひとつは10,000社以上のベトナム企業を会員とし、各省や政府系機関に対しても権威とコネクションをもつVCCIと友好関係が築けたことがあげられます。関係が築けた大きな要因は、インターン中に自主企画した、ベトナム中部および南部にあるVCCI拠点におけるインターンシップです。VCCI本部であるハノイ(北部)のみのインターンシップに留まらず、地域ごとに異なる文化・言葉がある中でVCCIとの関係を深め、人脈をさらに広げることができました。

この友好関係は、即座に事業に結びつくわけではありませんが、各方面に相談できるベトナムの友人がいることは、未開の地を進む上で心強い羅針盤を得られたものと思っています。

インターンシップ風景



日越ビジネスマッチングイベント
開催前のリハーサル



VCCIダナンでのインターン時
所長との打合せにて

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

私の勤務する日本無線株式会社は、創業以来100年の歴史をもつ通信機器メーカーで、通信機器を中心としたシステム機器の製造・販売をしています。売上は日本国内が中心です。

インターンシップに参加するまでは、私は経営戦略本部で国内における新事業の企画や立上げに携わっていました。しかし帰国後は、インターンシップでの活動や経験を評価され、新設された海外事業推進部に異動となりました。海外事業推進部では、インターンをしたベトナムだけではなく、世界各国で事業進出を幅広く活動を期待されています。

例えば、ベトナムを含めた東南アジアの各駐在事務所を現地法人化するためにコスト分析をしたり、情報収集や製品売り込みのために、アジア開発銀行が主催する国際フォーラムへ出席したりしました。国際フォーラムでは、世界の政府関係者、企業代表者らと、アジアを中心とした発展途上国のスマート化について議論し、ベトナムで直に体験してきた発展途上国の実情を交えて話すことで、理解を得ることに成功しました。

その他にもフランスの国際展示会へ製品を出展しました。出展に際し、現地事務局と各種折衝を英語で行いました。インターンシップ中にも粘り強い交渉を求められることが多かったのですが、その時の経験と反省を活かし、この出展でも交渉を成功させることができました。

現状インターンをしたベトナムでの人脈や情報を直接活かしているわけではありませんが、インターンシップ中に得た経験や知識のひとつひとつが海外での活動で何かしら役立っています。インターン中では、とくに成果につながらなかったような体験も、私の知識や人格に厚みを作ってくれてたのだと実感しています。

なお、VCCIの方々とは、日本出張された際にお会いしたり、情報や意見交換をしたりしています。東南アジアでは、言語や正確性の観点から情報収集が困難なことも多くありますが、何かあればいつでも相談してくれ、との力強い言葉をかけてくださっており、非常に心強い存在になっています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

当インターンシップでは、計画に沿って得られる経験や成果の他に、多くのセレンディピティがあります。仲良くなった方の紹介でビジネスが進んだり、現地の方との議論を通じてよい商品アイデアが得られたり、思いがけない新規顧客に出会ったりすることがあります。経済産業省やHIDA、JETROの皆さんの援護射撃によって、多くのきっかけやご縁を得られます。企業では今の延長上で働いていくことが多いかと思いますが、当インターンシップではこれまでにはない飛躍を得る貴重なチャンスかと思っています。国際的に活躍できるリーダーへの第一歩として、一生に一度だけしか得られない機会をぜひ活かしてみてはいかがでしょうか？